

家庭 (小学校6年生) 「私の生活ビフォー・アフター」

1. 授業の実際 授業校 千葉市立瑞穂小学校 指導者 赤田 香織

(1) 題材名 私の生活ビフォー・アフター

(2) 指導と評価の計画 (2時間扱い+課外2)

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法				
		関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解	
課外	<ul style="list-style-type: none"> ・家にある、「役に立っていない物」を調べる。 ・家族にインタビューして「役に立たなくなった物」をどうしているかを調べる 					
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○限りある物の有効な使い方について、環境への配慮にも留意して、考え工夫することができる。 ・自分の身の回りで現在「役に立っていない物」を紹介するとともに、使わなくなった理由を発表する。 ・使わなくなった理由を分類する。 ・どうしたらよいかを考え発表する。 	①自分の消費生活と環境とのかかわりについて課題をみつけ、環境に配慮して生活しようとしている 行動観察 ワークシート	①使われなくなった物を今後どうしたらよいか自分なりに考え、工夫しようとしている。 ワークシート 実践計画表		①自分の消費生活が環境に負荷を与えていることに気付いている。 行動観察	
課外	身の回りの役に立っていない物の処分について、自分で方法や工夫を考え、実践する。					
1	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えた方法で「使わなくなった物」のゆくえを決定し、実践したことを報告することができる。 ・自分の実践について報告する。 ・友だちの発表から、物を大切にしたり、環境に配慮した生活をする様々な工夫に気付く。 		②環境に配慮した物の使い方を考え、工夫したりしている。 行動観察 ワークシート			②物の一生は循環していくことを理解している。 行動観察 ワークシート ワークシート

(3) 本時の目標

限りある物の有効な使い方について、環境へも配慮して工夫することができる。

(4) 本時の展開 (1/2)

	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導入	1 自分の身の回りの物で、欲しくて手に入れたが今は使っていないものを班で発表し合う。 ※欲しいと思ったときの気持ち ・どうしても欲しくて、お金をためて買おうと決めた。	○子どもが家庭で撮ってきた写真をワークシートに貼らせる。 ○自分が欲しいと思った時の気持ちや、欲しかった理由についても述べさせる。
展開	・友だちが持っていてうらやましかった。プレゼントで買ってもらうことになって嬉しかった。 ・お店で見て、いいなと思った。 ※使わなくなった理由	○欲しいと思ったときの気持ちや使わなくなった理由を分類することで、共通点があることに気付かせる。 ○5年生で学んだ「賢い買い物の仕方」を

<p><本当に必要ではなかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流行っていてみんなが買っていたからついつい買った。(玩具・文具) <p><時間が経って必要性が減った></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流行遅れで着たくない(服) ・好みに合わなくなった(服等) ・今でも気に入っているが、体に合わなくなった。(靴・服) <p><壊れた、使えなくなった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く使って、痛んだり汚れたりしているが、愛着があって捨てられない。 ・壊れてしまった(玩具・文具) <p>2 全体で紹介し合う。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>思い出させ、話し合いの参考にさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">使われなくなったものはこの後どうしたらよいだろうか。</div>	
<p>4 使わなくなった理由等をもとに、身の回りの物をどうするか、また今後どのように生活していくかを考え、班で話し合う。</p> <p>○手放す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミとして捨てる ・分別してリサイクルに出す ・誰かに譲る(フリマ等も) <p>○手放せない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再利用する ・整理する ・デジタル保存 <p>○買う時に十分気をつける</p> <p>5 全体で紹介し合う。</p> <p>6 友達の意見を参考に、自分の使われなくなった物についてどのようなことができるか考え、実践計画を立てる。</p> <p>7 実践計画を紹介する。</p> <p>8 学習の振り返りをする</p>	<p>○「物」そのものの処分の仕方だけでなく、「物」に対する「思い」をどうするかについても考えさせるように助言する。(写真、思い出のある物)</p> <p>○環境への負荷の観点からも考えられるように助言する。</p> <p>○どうするかを記入するカードを用意し、書いたら班ごとに1枚の紙に貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードは「手放す」「手放さない」その他で色分けし視覚的にわかりやすくする。 <p>○役に立っていないものだけでなく、今の自分の生活や行動についても考えて課題を見付けて計画を立てさせる。</p>

2. 成果と課題

- (1) 「物」に向き合う題材を構成し、「物」のサイクルを「考える」場を設定したことは、児童の「物」の見方の変容につなげることができた。児童は「物」の価値を考え、「物」の使い方を工夫したり、処分の仕方を考えて実践したりするなど環境に配慮したよりよい消費生活を築こうとする姿がみられた。
- (2) 第5学年では、家族が働くことによって得られた収入の大切さに気付かせるよう設定した。その大切な金銭で購入した「物」について考える場を第6学年で設定したことで、「物」のサイクルを見つめ、今後の自分の消費行動について考えるよい機会となった。
- (3) フリーマーケットやネットオークション等、物の売買がしやすい現状から、再利用処分について「売る」ことだけを前提とした安易な行動にならないような学習の配慮が必要となる。また、中学校の通信販売等の学習にどうつなげるかも課題である。

(文責 瑞穂小 赤田 香織)